

## あいであ &amp; アイデア

## 子牛用保温マットを自作——寒さ対策万全に

はさま  
迫地方農業共済組合 高橋 直樹

迫地方農業共済組合は、宮城県登米市に所在し、2市1町（登米市、気仙沼市、南三陸町）を管轄しています。管内には、日常作業の効率化や費用節減を図ろうと、創意工夫する畜産経営者が多数います。

その中で、従来品よりも低コストで安全な子牛用保温マットを自作している境野一好<sup>さかいのかずよし</sup>さんを紹介します。



(写真1) 境野一好さん

## 自作のきっかけ

境野さんは、登米市で肉用牛繁殖を営んでいます。当地方は寒さの厳しい地域です。生産子牛の保温のため、身近な材料を使用しての子牛用保温マットを考案し、自作しています。

境野さんは、以前はコルツヒーターを使用していました。しかし、「つるすタイプのヒーターは、親牛が電気コードをいたずらするのではないかと心配」とのこと、「目の届かないところでは、あまり使用できなかった」と話します。家畜に対する安全性に疑問を抱いたのがきっかけで、保温マットのアイデアが思い浮かびました。

## 材料及び製作方法

材料には、発泡スチロールと市販の電気毛布、PP（ポリプロピレン）プレートを使用しています。



(写真2) 自作した子牛用保温マット

それぞれの材料を使用するメリットは以下の通りです。

- ①発泡スチロール 熱に強く保温効果が高い
- ②電気毛布 天候に合わせて温度調節が可能
- ③PPプレート 汚れても洗濯できる

大きさは、幅60cm×縦120cmに統一しています。「子牛が休んだときにちょうど良い大きさであり、一番無駄が少ない」と境野さん。

保温効果を一層高めるために、発泡スチロールは3～5cmの厚さのものを使用しています。その上に電気毛布を敷き、テープで仮留めした後、PPプレートを乗せ、全体を



(写真3) 材料を幅60cm×縦120cmの大きさに切り取りする



(写真4) 発泡スチロール、電気毛布、PPプレートをガムテープで固定して完成する

ガムテープで固定して完成です。1時間ほどの作業で製作できます。

製作費は、1個当たり3000円程度と市販のマットの半分以下の経費で済みます。従来のヒーターと比べて、使用電力を10分の1に抑えられるため、特にコスト面のメリットが大きいといえます。

## 親牛のいたずら防止にも配慮

親牛のいたずらが心配だった電気コードは塩ビパイプを通して保護することで安全を確保しています。境野さんは、「常に安心して使用できるようになりました。子牛も1日で保温マットの温かさを覚えるようで、足を長くしてリラックスしています。この様子を見るのがうれしい」と笑顔を見せます。



(写真5) 保温マットの上にわらを敷いて使用する

## まとめにかえて

使用に際しては、保温マットの上にわらを敷き詰めるとともに、少し傾斜をつけて、ふん尿を流れやすくしているのがポイントです。清潔な床を保つために、朝晩の2回、敷料を交換しています。

境野さんは、「子牛は体が冷えると乳を飲む力が低下するため、冬の寒さ対策は欠かせない」と話し、「子牛育成の充実を図るため、経営の安定につなげるためには、今後も日ごろからの工夫・考案を積み重ねていきたい」ととても意欲的です。

(筆者：迫地方農業共済組合総合対策課広報担当)

## あいであ &amp; アイデア